東北駆け込み寺

いろは横丁相談室だより

No.34
2023年7月1日

「フードバンク仙台」を学ぶ

6月11日のオフ会では、NPO法人フードバンクの川久保さんをお招きして団体の活動を紹介して頂きました。

フードバンク仙台は、企業団体・個人からまだ安全に食べられるにもかかわらず処分されてしまう食品等の寄贈を受け、ワーキングプア（働く貧困世帯）、ひとり親世帯、障がい者、高齢者、災害の被害者、外国人労働者等の経済的困窮に陥るおそれのある人々を対象に、食品の提供及び生活支援に関する事業を行っています。





（当日の資料を欲しい方は、相談員グループLINEに「フードバンク資料希望」とコメントをお願い致します）

コラム　№20　『温泉旅行』

ここ最近は温泉へ行くことがひそかな趣味になっている。福島や山形など近いところは移動時間も少なくて済むので、週末にふらりと行ける。客室露天風呂付き高級宿ではなく、昔ながらの素朴な湯治場の方がなぜか惹かれる。決して負け惜しみではない…たぶん。

情緒ある温泉街は散策するだけでも楽しい。川沿いに温泉宿が立ち並び、その間を埋めるようにお土産屋さんや食事処がある。街並み全体がどこか懐かしい雰囲気で、ゆっくりと時間が流れているように感じる。川を眺めながら食べるふかしたてのお饅頭が最高に美味しい。温泉に行くようになってから、和菓子がとても好きになった。



いつも突然思い立って行くので宿の予約は取れないが、宿泊をしなくても十分に旅気分を味わえるのがありがたい。今度は必ず泊まりに来るぞ、と静かに決意した。　　ようこ

東北駆け込み寺岩手支部が5月16日の地元紙岩手日報に掲載されました



岩手日報　2023年（令和5年）5月16日（火曜日）

困りごと 気軽に話して

織笠さん 山田出身 設立の「東北駆け込み寺」

家庭、仕事の悩みに無料で相談に応じる織笠英二代表理事

本県初 盛岡に相談室

幅広い悩み、無料で対応

家庭、仕事の悩みといった相談に無料で応じる一般社団法人「東北駆け込み寺」（仙台市）は、盛岡市黒石野に本県初となる岩手相談室を開設した。分野を問わず広く受け付け、深刻なケースは支援機関への橋渡し役も担う。東日本大震災の被災者の相談支援から受けた依頼を拡大してきた。関係者が気軽な利用を促している。

岩手相談室は数人のボランティアスタッフが原則、電話で相談に応じる。法人代表理事の織笠英二さん（68）は「人に話すだけですっきりすることもある」と寄り添っている。

織笠さんは山田町出身で、東京の大手電機メーカーに勤務していた2011年に東日本大震災が発生。被災地に足を運び、困り事や愚痴に耳を傾けるボランティア活動を仙台と続けてきた。5年以上が経過して被災者からの相談は落ち着いたが、経済状況の悪化などを受けて相談支援の間口を広げる必要性を痛感。18年に任意団体「仙台駆け込み寺」を立ち上げ22年に法人化した。

仙台市のほか石巻、名取、岩沼の各市に相談所を設け、合わせて約160人のボランティアの相談員も募集している。経験、資格、性別、年齢は問わない。希望者は東北駆け込み寺のメール（tohoku.kakekomidera@gmail.com）へ。

相談は原則、電話（019・625・5555）で受け付ける。時間は午前8時～午後6時（不定休）。

◇　◇

相談は毎月30件程度。相談者は20～70代と幅広く、女性からが約7割を占める。ドメスティックバイオレンス（DV）や「住む所がない」といった内容もあり、専門の支援機関に同行するケースもあるという。

織笠さんは「小さな悩みでも構わない。気軽に利用してもらい、事態が深刻になる前に食い止める力になりたいらいこと力を込める。

織笠さんによると、東北駆け込み寺に寄せられる相

6月の相談状況

【相談内容別】

・ＤＶ	2件
・家族の問題	13件
・ストーカー	0件
・家庭内暴力	0件
・心の問題	7件
・仕事の問題	3件
・生活の問題	8件
・病気の問題	0件
・介護の問題	0件
・住宅の問題	0件
・恋愛の問題	2件
・お金の問題	0件
・その他問題	0件
合計	35件

【年代別】

・10代	0件
・20代	11件
・30代	9件
・40代	6件
・50代	3件
・60代	4件
・70以上	2件
・不明	0件
合計	35件

【男女別】

・男性	15件
・女性	20件
合計	35件

【ボランティア延べ人数　111人】
仙台 48人、閖上6人、石巻20人、岩沼17人、岩手20人